

十字架称賛の祝日の説教

金 大烈 神父 2008年9月14日(日)

《十字架は顕(あらわ)し揚(あ)げる物》

おはようございます。

お元気ですか？

皆様よく聞いて下さい。イエス様が私達を選びました。イエス様が私達を選択してくださいました。この言葉を信じますか？「信じられる方は手を挙げて下さい。」(ほとんどの方が手を挙げる)はい、ありがとうございます。これは正しい言葉です。キリスト教の原則は人間が神様を選んだわけではなくて、神様が人間を選んだ事を意味します。ですから皆様は選ばれた事になります。これは2000年間私達カトリック教会が守ってきたひとつの信仰です。そうです。イエス様が私達を選択してくださいまして呼びかけた事を私達は信じています。そうすれば、イエス様はどのような形で私達を呼びかけたのでしょうか？「あなたが私を信じてついてくれば、あなたはこれからなんの病気にかからない。世の中の心配する事も無くなり、病気になってもすぐに治る。絶対に飢えることもなく、いつも生き生きしている体を保つ事ができる。私を信じたら何の怖さも無くあなたが責められる事もなる。望んだらお金も沢山儲けることになる。」とそういう呼びかけに『はい』と答えたのでしょうか？違いますよね。イエス様は何の話をしながらか「付いて来なさい」と言ったのでしょうか？

そうです。「自分の十字架を背負って付いて来なさい。」これがイエス様が呼びかけた内容です。実際にこのような呼びかけなら、誰でもちょっとがっかりします。皆様の中に洗礼の為に求道者のお勉強されている方、最近洗礼を受けた方がいらっしゃいます。その勉強するときにイエス様を信じることになって洗礼を受けたら全ての心配事はなくなりますとは教えてもらわなかったと思います。救い主に会って幸せを感じられるというこの信仰を持っているのに、なぜイエス様はそういう私達に人間的に欲しがる物を約束して下さらなかつたのでしょうか。むしろ「自分に与えられた十字架を強く抱きしめて付いて来なさい」と仰ったのでしょうか。十字架とはどういう事でしょうか？もちろん私達は日常生活の中で一生懸命祈り・願う心、共にイエス様に願えば、いろいろな祝福が与えられます。病気にかかった人も秘跡によって癒される事も沢山あります。精神的に悩みを持っている人も信仰を持ちながら癒される場合もあります。しかし、皆様イエス様はなぜ「十字架を背負って付いて来なさい」と仰ったのかをよく考えてみましょう。訳があります。

もし病気にかかっている人がいるとしましょう。いろいろな病院に通いながら治療を受けましたが効果が出ませんでした。ある日イエス様に出会って必死に祈っているいろいろな人々の心こもった祈りに支えられ病気が治ったとしましょう。それを周りは祈りの力で起こった奇跡と言います。しかしそこで取り戻した健康はいつまで続くのでしょうか。変わらない真理、それは老いて死ぬことです。世の中で私達が望んでいる全ての事は結局去ってしまうのです。ですからイエス様が私達に仰るのは、変わるものを求めずに、絶対、変わらない、腐らないもの、飽きることのないものを求めるように強く勧めることです。そのためにあなた方は本当に最後まで願って、望まなければならないと教えています。それは自分に与えられたその十字架を喜んで抱きしめて歩きなさいという事です。よく考えてみましょう。

今日はなんの祝日でしょうか？『十字架の称賛の祝日』です。他の表現で『十字架の顕揚の祝日』とも言います。顕揚(けんよう)とは顕(あらわ)し揚(あ)げることを意味します。「私の十字架を皆さんに隠さずに誇りを持って見せますと」いうこと。これがカトリックの精神です。イエス様はご自分で模範になって十字架を担ったのです。「イエス様、あなたに付いて行きます」と言いながら、私達が自分に与えられた十字架を避けようとすれば、その十字架はただの飾りに過ぎないことになってしまいま

す。“ 顕し揚げる ”すなわち、顕揚することです。皆様が持っているその十字架、痛み、それこそイエス様が約束した世界の味を味わわれる方法です。

実際に、私達が洗礼を受けて信者になってから、むしろ洗礼を受ける前より不便なところがあります。洗礼を受ける前は良心がとがめなかった事が洗礼を受けた後は気になることもかなりあります。例えば、日曜日ゆっくり休んでいようと思ってもミサに与らないと何となく罪を犯した気持ちになってしまい、実際に洗礼を受ける前より不便になります。洗礼を受ける前は誘惑でなかったものが洗礼を受けた後は誘惑になるものもあります。誘惑といえば一言でどのように説明が出来るんでしょうか。自分の考えでは『出来るのに出来ない事』ではないかと思えます。出来るんです、やれば出来るんです。しかしやってはいけない。それが誘惑です。その誘惑がだんだん増えて行く事が信者の生活じゃないでしょうか？ しかし私達はイエス様の約束を信じています。変わらない、とこしえに奪われないそういう宝物をいただくという強い心でこの世の中を生きています。

皆様、夫婦・親子・兄弟のいろいろな問題があると思えます。そしてその痛みを私達は出来るだけ避けたい気持ちになります。しかしその十字架を重荷と思わないで下さい。無駄にしないで下さい。むしろ、宝物だと信じて下さい。十字架には必ず意味があります。そういう痛みを通して、十字架を通して私達は成長します。これが十字架の神秘です。十字架は隠す物ではありません。顕し揚げるものです。今日の日本語の表現では“ 称賛 ”という言葉を使いました。やさしく言えば、それは褒める事です。十字架は良い事だと褒める事です。皆様が頭でなくて心で、私の十字架は避けるもの、隠すものではないと叫ぶ事が出来れば、その真の意味を分かることになると思えます。それが十字架の神秘です。

今日のお説教はこれで終わりです。

今日は旧暦で何の日かご存知でしょうか。日本は今、旧暦を使っていないので、お正月もお盆も年によって日が変わらず、毎年1月1日と8月15日に定まっています。しかし、まだ、中国、韓国は正月とかお盆の日が毎年違います。それは旧暦に合わせているからです。今日は旧暦の8月15日で今晩は十五夜です。十五夜はどんな月が出ますか。満月です。一年で一番大きい月が見えると言われます。今晩曇らないと思えますので、外に出てその月をご覧になって下さい。満月を見ながら昔の純粋な時代に戻って望みを願ってみて下さい。韓国では、十五夜でこのように祈ります。「以上にも以下にもならず、ただ十五夜のお月様の様になりますように。」と。月を見ながら思い出を浮かべながら、ご夫婦がお互いの手をつないでみてください。それが浪漫であり生きる味ではありませんか。

ありがとうございました。